

令和5年
1月号

AQUA



医療法人社団 愛友会 三郷中央総合病院 メディカル通信



日本医療機能評価機構
認定第 JC1561 号

特集：院長新年の挨拶 「みんな」で支え合う一年と なりますように

contents

日本医療機能評価機構の認定病院	1
病院理念・基本方針（行動指針）	1
院長新年の挨拶 「みんな」で支え合う一年と なりますように	2
新入職医師紹介	3
感染対策チームからのお知らせ	3
医療安全対策室からのお知らせ	4
交通のご案内	4

病院理念

愛し愛され信頼される病院

基本方針（行動指針）

- 1 すべての人の人格を尊重し、誠実に対応いたします。
- 2 わかりやすい言葉で説明いたします。
- 3 患者さまの訴えや要望に対し迅速に対応いたします。
- 4 安全・安心に基づく医療を提供いたします。
- 5 地域の医療機関・保健機関と緊密に連携いたします。

「みんな」で支え合う一年となりますように

院長 徳弘 圭一

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

新型コロナウイルスの発生が我が国で確認されてからもうすでに丸々3年経過しています。

昨年は12月にも第8波の流行が生じ、さらにはロシアのウクライナ侵攻という戦争も勃発し、その影響で物価も高騰という事態が生じており、暗い話題ばかりが多かった年となってしまいました。唯一、ベスト8は逃してしまいましたが、サッカー日本代表のワールドカップでの活躍“ドーハの歓喜”が我々の心を熱くさせてくれました。

ところで、皆さんはヘルプマークを知っていますか？

ヘルプマークは、2012年に東京都福祉保健局によって作成されたピクトグラムです。

ピクトグラムとは、非常口マーク、車椅子マークなど、絵文字で標識を示し1900年代初めから道路標識で使われ始め、1964年の東京オリンピックから積極的に使用されています。最近では、妊娠されている方が着けているマタニティマークの方をよく目にするかもしれません。昨年、椎名林檎さんのグッズがヘルプマークに似ていて物議を醸し出したことを記憶している方もいるかもしれません。

最近、病院に来院される方も時々着けていらっしゃる事もあり、少しずつ認知されてきたと思っています。ヘルプマークの裏には支援内容や緊急連絡先が記入できます(図1)

先日、朝日新聞に載っていた記事の事です。39歳の女性が、31歳の時に骨髄異形成症候群という血液のがんで余命5年と宣告され、いつまで生きられるか解らない状態だったそうです。1年間の入院後も貧血やめまいで5分歩くのも容易でなかったとの事。満員電車に乗って優先席に座っていると「若いのに、優先席に座って、恥ずかしいのか」、前に立ち続ける高齢者も「若いのになあ」とささやき合う人達もいたそうです。立っていて、思わず床に座り込んでしまうこともありましたが、誰も声をかけてはくれなかったとの事です。

ところが、ヘルプマークをつけてからは一変したそうです。高齢者が心配してくれたり、満員電車でも「困ったら声をかけるんだよ」と言ってもらったそうです。病気について詳しく聞かない気遣い、それでも頼っていいと信じさせてくれる簡潔な一言。

「ヘルプマークを通じて、今日の生活をいかに守ろう、限られた時間を楽しく生きようとしている人がいるのか、わかってくれたらうれしいです」と述べています。ヘルプマークを見かけましたら、我々も何か手伝えることはないだろうかと考えてみてください。

他にも障がい者に関するマークがありますので、参考にしてみてください。(図2)

これから更なる高齢化を迎える日本の社会は、みんなの力で支え合う事が必要となってきます。また、若い人も皆さんの力を必要としている方がいることを理解できるようになれば、やさしさの日本が益々世界にアピールできるのではないのでしょうか。

ワールドカップサッカー日本代表の森保一監督は、選手に慕われてあそこまでの感動を我々に与えてくれました。試合後に監督が選手達へ投げかけたメッセージがあります。ドイツ戦勝利後、「やるべき準備をして粘り強く戦う、すると結果が出る。みんなの努力が結果に出て良かった。」スペイン戦勝利後、「みんなが世界の舞台で勝てることを示してくれた。きょうは喜び合おう、でももっと先に目標はあるぞ。喜ぶところは喜んで次に切り替えます。」クロアチア戦敗北後、「悔しい敗戦だったけど素晴らしい試合だった。これまでみんながやってきたことは変わらないし、次へ次へとずっと時が流れていくということを、みんなが新しい景色、最高の景色を目指していけば必ず歴史が変わるということを。この悔しさを胸に刻んで次にやっていくことをみんなでやっていく。」これらの発言で共通する言葉は、「みんな」と言う言葉です。この言葉で、選手達は試合に出なかった控え選手も含めて26人全員が一つとなって、相手方11人と戦っているイメージだったということです。みんなで支え合う社会が今後の日本社会には必要だと考えています。

もちろん私も、病院の職員みんなと一緒に一つとなって、皆様の健康とそして病気と向き合っていけますよう今年も邁進してまいりますので、よろしくお願い致します。



《図 1》



《図 2》

新しい医師のご紹介



なかはら たくみ
脳神経内科 中原 拓巳

2022年10月より、獨協医科大学埼玉医療センターから異動になりました、中原拓巳と申します。専攻は脳神経内科ではありますが、レジデント1年目であり、まだまだ未熟な点が多々あるかと存じます。少しでも地域の医療に貢献出来る様、精進して参りますので、6ヶ月と大変短い期間ではありますが、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスの同時流行について

感染対策チーム 飯干 雅稔

この冬は新型コロナとインフルエンザの同時流行の可能性が高いと予想されています。新型コロナ、インフルエンザは発熱、咳、鼻水などの風邪症状が出現することが多く、症状だけでどちらかを判断することはできません。

厚生労働省はこの同時流行に向けて、個人ができる対策として、「ワクチン接種」「検査キット・解熱鎮痛薬の準備」「緊急時の連絡先の確認」を国民にお願いしています。新型コロナ、インフルエンザなどの感染症がお住まいの地域で流行してしまうと、受診する患者が多くなり病院に受診ができなくなることや、市販の解熱鎮痛剤も売り切れてしまうことがあります。そのような緊急事態でも対応できるように、あらかじめ検査キットや解熱鎮痛剤など準備をしていただくことを医療機関からもお勧めいたします。

新型コロナは自宅で実施した抗原キットが陽性であれば、都道府県のルールに従って、陽性者登録を行います。年齢などの条件により、医療機関から陽性者登録を行う場合と、医療機関を受診せず自分自身で登録を行う場合に分かれます。お住まいの都道府県のホームページ等でご確認ください。抗原キットには様々な種類があります。国が承認していない抗原キットでは陽性が判定されても陽性者登録ができない場合があります。

インフルエンザは個人で陽性者登録を行うことはありませんが、タミフルなどの薬は市販されておりませんので、検査が陽性であった場合には医療機関への受診をお勧めいたします。

発熱、咳、鼻水などの風邪症状などは感染症が引き起こしていることが多く、症状がある場合には、手指衛生やマスク着用など感染しない、感染させない対策が必要となります。医療機関受診の際にも、他の方に感染させないような対策が必要となります。受診の際にはまずは電話にてご相談ください。

感染症を引き起こす細菌やウイルスは我々よりもはるかに速いスピードで進化していきます。世界のどこかで新たな感染症が発生すると、数日、数週間で国内に侵入してくる時代になりました。国内で発生することも考えられます。感染症を予防しつつ、感染してしまった際の対応も考えていきましょう。

この冬は、ワクチン接種・新型コロナ抗原定性検査キット・解熱鎮痛薬の準備を

新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザが同時に流行すると、発熱外来が逼迫する可能性があります。

感染が拡大する前の接種をご検討ください

- ・新型コロナワクチンの接種
新型コロナワクチンの早期の接種をお願いします。
- ・インフルエンザワクチンの接種
65歳以上の方などの定期接種対象者で、接種を希望される方は早めの接種をお願いします。

発熱などの体調不良時にそなえて、早めに購入しておきましょう

- ・新型コロナ抗原定性検査キット
- ・解熱鎮痛薬
かかりつけ薬剤師・薬局にお気軽にご相談ください。

あわせて確認しておきましょう

- ・電話相談窓口などの連絡先
受診・相談センターなどお住まいの地域の相談窓口、「救急車利用マニュアル」の巻頭や7119（救急相談センター）、6000（こども医療相談）など
その他、お住まいの地域でも確認しておきましょう。
（休診日・日中のみ受付 9時～18時 など）

国が承認した新型コロナ抗原定性検査キットを選びましょう

「研究用」ではなく国が承認した「医療用」もしくは「一般用」のキットを使用してください。

国が承認した検査キットの一覧

医療用 一般用

全国知事会

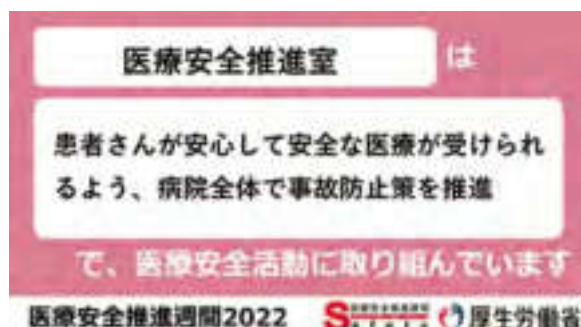
医療安全推進週間にあわせイベントを開催しました

医療安全推進室 黒田 諭

厚生労働省では、平成 13 年から「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動（ペイシェント・セーフティ・アクション）」と命名し、総合的な医療安全対策を推進しています。その取り組みの一環として、11 月 25 日（いい医療に向かって GO）を含む 1 週間を「医療安全推進週間」と定め、「世界患者安全の日」と共に、医療関係者の意識向上や、国民の理解を深めていただくための様々な事業を実施しています。

当院でもこの時期にあわせ、全職員で医療安全に関する取り組みを実施しています。今年度は、各部署より医療安全に関するポスターを作成してもらい、院内でポスターの掲示を行うポスターセッションを開催しました。24 部署からポスターの提出があり、各部署ともセンスあふれるとても力が入ったポスターを作成してくれました。作成されたポスターは、自部署で起こりやすいインシデント内容をテーマとして取り入れており、院内全体で医療安全への関心が高められたと感じています。また、多くの部署がこの取り組みに参加することで、チームワークの良さも再認識しました。

今年の医療安全推進週間のスローガンは、「わかるまで聞こう話そう伝えよう」でした。患者さんやそのご家族と、私たち病院職員が良いコミュニケーションを築くことで、安全や安心が生み出されると考えています。これから医療安全文化の醸成に努め、地域のみなさまが、安心して受診できる病院を目指していきます。



交通のご案内



つくばエクスプレス「三郷中央駅」より
徒歩 8 分

埼玉観光(株)バス 三郷駅南口行き
三郷中央総合病院前バス停下車

JR 武蔵野線「三郷駅」より

無料送迎バス 約 5 分(およそ 30 分に 1 本)
三郷駅南口 ロータリー コンビニエンスストア前付近より

東武バス
(金 52) 金町駅行き 幸房バス停下車 徒歩 3 分

埼玉観光(株)バス 新三郷駅西口行き
三郷中央総合病院前バス停下車

発行/医療法人社団 愛友会
三郷中央総合病院
厚生労働省臨床研修指定病院
日本医療機能評価機構認定病院

〒341-8526
埼玉県三郷市中央四丁目5番地1
電話 048-953-1321 WEBサイト <http://mchp.jp/>
FAX 048-952-7279 E-mail info@mchp.jp

